

# 巻頭言

## いろいろな研究

取締役副所長

高瀬公彦



科学技術においては「研究」といってもいろいろなものがある。基礎研究と応用研究に分ける人も居るし、基礎研究をさらに先端的基礎研究と補完的基礎研究とに分けて考える人も居る。一方、世界的な流れとしては、昔は研究というものが情緒的に捉えられていたのに対し、近年では研究成果がそのまま自由市場に売り出される「商品」として捉えられる傾向が強い。その中で、ドイツでは基礎研究、アイデア研究、応用研究に分かれて別々の機関で進められているという。もちろん、この中ではアイデア・応用研究が自由市場に売り出される商品となりうる。我が国ではアイデア研究の位置づけが明確でない場合が多い。先端研究と誤解している人も居る。

論文もまたいろいろ有るのではないか。基礎的研究の成果を社会に提示して、多くの共感者を募り、それを契機にその研究領域の発展を促して社会的な貢献をしようというもの、研究成果の特許化またはノウハウ化して自由市場に研究成果という商品として売り出そうというもの、アイデアの応用先を探そうというもの、などいろいろである。

私たちも、自分の研究が、また論文がどのポジションにいるかをきちんと考える事が必要である。そこを漠然と捉えると、その研究や論文が、単に自分の研究者としての存在の証しのためのものになってしまうこともある。研究は社会のため、人類のためのものでなければならない。